

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 547 号	氏名	野中 良和
学位審査委員	主 査	小路 武彦	
	副 査	中尾 一彦	
	副 査	宇谷 厚志	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、光線力学的療法(PDT)の臨床応用に向けた基礎的研究として、胆道癌細胞の細胞死誘導に対する新規光感受性薬剤と各種抗癌剤との相乗効果を検討したもので、研究目的として妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 ヒト由来胆道癌細胞(NOZ)を用い、in vitro 系では、各種抗癌剤処理後、レザフィリン-PDT を行い MTS assay により生存率への影響を検討した。また in vivo 系では、NOZ 細胞をヌードマウス皮下に移植して腫瘍モデルを作成し、抗癌剤を腹腔投与後、レザフィリン-PDT を施行し、得られた腫瘍組織標本にて腫瘍壊死率、TUNEL 染色、PCNA 染色などにて細胞動態を評価しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 以上の検討の結果、NOZ 細胞に対し、in vitro では gemcitabine と oxaliplatin の抗癌剤二剤併用と PDT によって最も大きな殺細胞効果が認められ、更にこの組み合わせにより in vivo でも有意な NOZ 細胞のアポトーシス誘導と細胞増殖抑制効果が認められており、これらの研究結果と考察内容は高く評価できる。</p> <p>以上のように、本論文は胆道癌治療に於ける PDT の臨床応用に向けた基礎条件の確立に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			